

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市市民センター
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 2,331,232人(前年度比 110.8%) 令和4年度 2,103,436人 令和3年度 1,596,920人 《貸室利用件数》 令和5年度 152,181件(前年度比 106.6%) 令和4年度 142,730件 令和3年度 110,686件 《事業》 ・施設の運営管理(施設の使用許可、使用料徴収含む。) ・生涯学習事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・指定管理者に支払った費用 2,012,503千円 (2,014,815千円) 施設管理分 1,455,360千円 (1,429,360千円) 生涯学習事業分 557,143千円 (585,455千円) ・その他市が負担した費用 35,498千円 (28,824千円) 施設管理分 34,156千円 (25,242千円) 生涯学習事業分 1,342千円 (3,582千円) 《収入》 ・使用料収入 161,581千円 (146,991千円) ・その他収入 8,099千円 (6,601千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・令和5年7月11日～8月10日の期間、市民センター利用者に窓口サービスアンケートを実施した。 ・近隣地域団体・学校・関係機関や利用団体等の出席による事業運営懇話会を各市民センターで実施した。

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	市民センターが担うべき役割を職員自ら十分に理解している。 また、事業運営懇話会を各市民センターで開催して地域ニーズの把握に努めるとともに、アンケートや各市民センターに設置した「ご意見・ご要望」箱に寄せられる利用者意見も踏まえながら事業の改善に努め、市民センターの目指す「人づくり」「地域づくり」に取り組んだ。	30/30(60館)
II 施設の運営管理体制	協定書、仕様書等に基づき、適切な施設運営がされている。 令和5年9月5日及び6日に発生した大雨での対応については、所管課へ速やかに報告があり、その後の対応についても適切に行った。	30/30(60館)
III 施設・設備の維持管理	日常的な施設の点検・清掃に努め、不具合箇所の早期発見や修繕など、適切な維持管理を行った。	24/24(54館) 14/14(2館) 18/18, 12/12, 11/11, 4/4 (各1館)
IV サービスの質の向上	指定管理者が実施する内部研修のほか、生涯学習支援センターや宮城県等が主催する外部研修の受講を通して、職員の意識向上やスキルアップに取り組んだ。 また、窓口サービスアンケートや事業運営懇話会、「お茶っこサロン」等の開催を通じ、市民ニーズの把握及び地域との顔の見える関係を構築し、サービスの向上に取り組んだ。 施設利用者の事故やケガの対応も適切に行われているほか、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、これまで実施することが難しかった事業についても、コロナ禍で培ってきた事業実施における工夫を活かしながら、利用者のニーズを踏まえて円滑に実施した。	28/28(59館) 26/26(1館)
V 施設固有の基準	施設使用許可、施設使用料徴収及び指定管理料以外の各種経費については、条例等の規定に基づき適切に行われた。 生涯学習事業については、大規模修繕による休館により中止を余儀なくされた事業もあったが、概ね年度当初に計画した事業を実施することができた。地域の学習ニーズや課題を把握し講座等を企画・実施するとともに、市民のライフステージに応じた学習機会の提供や誰もが参加しやすい環境づくりに取り組んだ。また、市民による主体的で多様な活動が地域で展開されるよう、サークル活動・市民活動の支援を行うとともに、地域住民や団体同士をつなぐコーディネートにも意欲的に取り組んだ。	22/21(10館) 21/21(44館) 11/11(3館) 24/21, 23/21, 19/19 (各1館)

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
●施設管理業務 市民センターの利用状況は、利用件数が152,181件、利用人数が2,331,232人であった。大規模改修工事による臨時休館等もあったが、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことにより、利用自粛も減り、利用件数、利用人数とも前年度より増加した。市民利用においても大きな事故もなく、基本的な感染防止対策を講じながら、安心・安全な施設利用の提供ができたと評価している。 市民センターの運営について、窓口サービスアンケートでは、全ての項目において「良い」「まあ良い」の合計が99%以上の評価を得た。アンケートや懇話会等で利用者の意見の把握に努め、苦情等については、迅速な対応とともに全館で情報共有を行い、業務改善に生かした。また、市関係部局とも緊密に報告・連絡を行っており、施設運営は適切に進められたと評価している。 ●生涯学習事業 生涯学習事業については、事業要求水準書の基本的事項を踏まえ、参加者が地域において主体的に活動し、学習成果を発揮できるように意識し取り組んだ。講座等の実施では、これまで培ってきたコロナ禍での事業実施における工夫等を活かしつつ、オンラインも活用しながら、市民の学びへの支援やジュニアリーダー等の活動支援に努めた。また、令和6年2月に開催した「市民センターフォーラム」では、SDGsの取り組み目標3「すべての人に健康と福祉を」について理解を深める特別講演と、市民センターで実施した健康増進に関する事業の取り組み内容をパネルにて紹介し、市民センターにおける持続可能な社会に向けた学び等への取り組みについて広く市民に知っていただく機会となった。 ●その他 令和5年5月に、自然災害や感染症等の流行などの有事においても事業継続可能な運営体制を構築するため、貸館業務にかかる情報の集約と他館の応援体制を記した「施設管理カルテ」を56館分整備した。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
窓口サービスアンケートの結果が示すように施設利用者の評価は良好である。 施設の維持管理については、各市民センターにおいて施設の状況に応じた管理や安全対策がなされている。また、令和5年5月に、自然災害や感染症等の流行などの有事においても事業継続可能な運営体制を構築するため、貸館業務にかかる情報の集約と他館の応援体制を記した「施設管理カルテ」を56館分整備するなど、施設管理者として事業継続可能な運営体制の確保に努めており、適切な運営がなされている。 生涯学習事業の実施に関しては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、これまで培ってきたコロナ禍での事業実施における工夫を活かしながら、多くの人が集い交流し合える事業を開催しており、要求水準書で定める講座等の企画数及び実施回数の「年間10事業、45回以上」を56館で達成し、全館平均では「年間12.5事業、54.9回」実施するなど、年度当初に計画した事業のほとんどを実施することができた。 生涯学習事業の具体的な取り組みに関しては、ライフステージに応じた講座や、高齢化や子育て、介護など現代的課題に対応する講座に取り組んだほか、「持続可能な社会に向けた学び」としてSDGsの要素を取り入れた事業展開を図るなど、地域を取り巻く課題に対して、市民自らが主体的な活動を展開できるような学びの機会の創出を行っている。さらに、市民センターにおけるだれもが参加しやすい学びの機会を提供するため、託児付きや手話通訳・要約筆記付き講座、オンラインを活用した講座を実施するなど、様々な取り組みを積極的に行っている。学びを地域に活かす取り組みとしては、コロナ禍で活動が制限されていたボランティア・サークル団体の活動が活発に展開されるよう、団体に講座の講師を依頼したり、活動内容を地域に発信して認知度を高め、意欲的な活動ができるような環境づくりを行っている。また、市民による地域づくりを支援する立場として、地域住民や団体同士をつなぎ、地域の現状や課題を把握できる場の設定やネットワークの構築を通じて、地域の課題に地域全体で取り組むためのつながりづくりを支援し、市民の主体的で多様な生涯学習活動を支援するコーディネーターとしての役割を高い水準で果たしていることは評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）
特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習支援センター、市民局地域政策課、各区中央市民センター